

ISO/TC225 WG2 第5回国際会議 参加報告
(兼 ISO/TC225 第5回全体会議)

ISO20252 認証協議会 運営委員長 一ノ瀬 裕幸
同 委員 古川 史人

1. 国際会議の概要

4月の東京会議に引き続き、WG2の第5回国際会議がベルリンで開催され、続けてTC225の全体会議が行われた。

日 時： 2007年9月19日(水)～20日(木)

会議名： ISO/TC225 WG2 第5回国際会議

参加者： WG2 メンバー(11カ国+1オブザーバー、計24名参加)

Convenor: Mr. Erich Wiegand (ドイツ ADM 代表)

Secretary: Dr. Holger Muehlbauer (DIN 事務局)

参加国： オーストラリア(1)、スペイン(2)、フランス(4)、メキシコ(1)、スウェーデン(2)、
日本(一ノ瀬、古川：2)、イギリス(2)、カナダ(2)、アメリカ(2)、南アフリカ(1)、
ドイツ(WG2 議長国：4)、ESOMAR(オブザーバー：1)

(続けて)

日 時： 2007年9月21日(金)

会議名： ISO/TC225 第5回全体会議

参加者： TC225 メンバー(11カ国+2オブザーバー、計19名参加)

Chairman: Mr. Bill Blyth (代理：イギリス、MRQSA 代表)

Secretary: Ms. Irene Rodriguez Gayo (AENOR 事務局)

参加国： 上記 WG2 からスウェーデン(2)、カナダ(1)、フランス(3)、アメリカ(1)が抜け、セルビア(1)
と WAPOR(オブザーバー：1)が新たに参加

場 所： (いずれも)ベルリン DIN 会議室

2. 討議 / 決定事項

CDの採択後に提出された意見・要望
について1日半にわたる討議を行った結
果、WG2としてDIS

(Draft International Standard)原案
を採択した。議長と事務局による編集作
業の後、およそ1ヶ月後にDIS案として
ISO中央事務局に提出される。



(ISO/TC225 WG2 第5回国際会議参加メンバー)

今後はDISをISO加盟各国での検討に付し、2008年5月にシドニーで開催予定の次回WG2会議にて

さらに討議を重ね、FDIS (Final DIS) として採択し、6 月以降に国際投票にかける。

正式発行については当初の予定どおり、2008 年の 12 月末ごろを目標とする。

3. 今後の作業スケジュール

2008 年 5 月 19 日～20 日、シドニー（オーストラリア）にて第 6 回 WG2 を開催する。

2008 年 6 月末以降をメドに、ISO 加盟国の国際投票に付す。

2008 年 12 月末をメドに、新 ISO 規格 (ISO26362) として成立へ。

4. 会議の状況と関連情報

(1) ISO20252 : 世界各国の進捗は遅れ気味

- ・ TC225/WG2に先駆けて実施されたESOMARとEFAMRO共催のパネルディスカッションでは、グローバル企業を代表してSynovate社から、また各国の代表としてはイタリア、メキシコ、オランダ、日本、フランス、イギリスからの報告を受けた。
- ・ 全体として、イギリスを除けばISO20252の普及の取り組みはまだ満足のできるレベルには到達していない。イギリスにおいては長年のMRQSAの経験があり、旧来の認証制度をISOに切り替えるだけのため、たいへんスムーズに進行しているとのことであった。

(2) 再び用語の定義問題

- ・ 「用語の定義」については何度か複雑な議論がなされてきたが、今回もアクセスパネル使用の調査において、「回答率/回収率」という概念を示す用語が改めて問題となった。最終的には前回の議論通り、Participation rate (参加率) を採用することが決定された。
ここは重要なポイントで、Response rateでもCompletion rateでもないことに留意が必要である。

(3) ISO20252 と、アクセスパネル規格の関係

- ・ カナダから、「2つの規格が並立することは合理的でない面もある。将来的に両者を1つにまとめることは可能なのか？」という問題提起があり、事務局からは「可能であればそうしたほうがよいと思う」との回答がなされた。実際に、他の規格でも先例があるとのこと。
- ・ ただし、調査会社とアクセスパネル業者が重なり合う（両方を兼ねる）国と、両者がまったく別に存在する国とがあり、統合のタイミングを含めて調整には時間がかかることが予想される。
- ・ 日本の場合、アクセスパネルを保有している調査会社は、現状ではISO20252に加えて新しい規格 (ISO26362) をも取得しなければならないと思われる。一方、アクセスパネルだけを運営している業者は、ISO20252にも従う必要があるが、新規格 (ISO26362) を単独で認証取得すればよいことになるであろう（両方を取得することも当然可能）。
こうした切り分けの判断は、各国の事情にも左右されるものと予想される。

(4) 日本における今後の進め方

- ・ DIS (案) が成立したことを受け、ISO20252認証協議会ならびにJMRA事務局として、翻訳作業を開始した。
- ・ ISO 202052の普及対策と並行して、DISの内容に関する問題の有無、日本における適用対策等を検討していくこととしたい。

以 上